

頸部リンパ節結核の2例

野山和廉 平井美紗都 小野田友男 富永進 西崎和則
岡山大学 耳鼻咽喉・頭頸部外科

結核は再興感染症として重要で、耳鼻咽喉科領域でも頸部リンパ節結核が日常診療にて経験されている。従来、結核診断には組織PCRや組織培養等が用いられてきたが、現在新しい検査法として患者の血液で検査できる Quanti FERON（以下、QFT）が注目されている。

今回、我々は、診断過程の異なる頸部リンパ節結核の2例を経験したので、文献学的考察をふまえて報告する。

症例1は、60歳女性で体重減少、頸部リンパ節腫大にて当科紹介され、最終的に生検組織培養にて頸部リンパ節結核と診断した。

症例2は、72歳女性で発熱、全身倦怠感、リンパ節腫大にて当科紹介され、最終的にQFT陽性および生検病理組織像にて頸部リンパ節結核と診断した。